

団体名	救援ボランティア左京
活動テーマ	災害時に活動できる人材育成



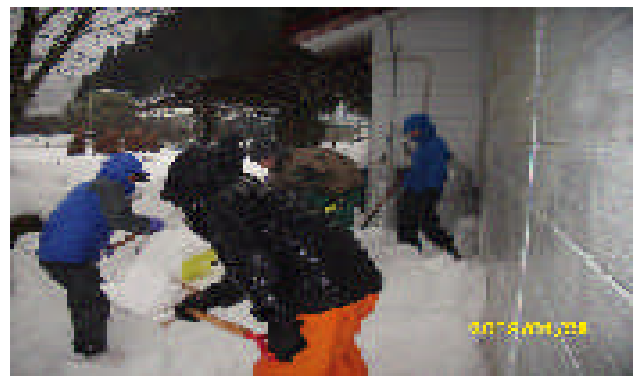
①



②



③



④

現在の社会環境では、市民が防災設備等で守られ自然災害等に被災する事は日常では無く、被災時に対応出来る技能や知識・判断能力を必要とせず生活し、災害対応は行政機関が行うものと考えがちで在る。

このような現状から活動の主たる目的は、全ての市民が出来なければならない「応急手当（救護活動全般）」や介護・後方支援・無線通信等の技能の講習を実施し、技能習得した市民が地域自治や防災活動の担い手と成ってもらう事で在る。

方法として、技能の習得には各項目について通年を通じた講習を実施し①、年度末には総合演習を行い、技能維持の方法は、他の団体の救護班を務める傍ら「血圧の観察実習」②を実施している（写真中央は看護学校へ進学予定の女性・左は母親〈看護師〉右は藤田女医）。

実際の災害体験は出来ない為に疑似体験として、左京区最北端の「久多地区で除雪作業【スノーバスターズ】」④※1や「クロスロードゲーム」を行い、実際に被害が出た自然災害の跡地を巡る研修等を行い意識の維持を計った③※2。

また、地域で「私はこのような講習を受けている」と言っても受け入れる側は難色を示すだろうから、話し方の工夫の知識として「こんなところに心理学（クロスロード新聞）」を取り入れ、「備える歴史学・磯田道史（朝日新聞連載）」は過去の人々が如何に行動したかの知識を得るために実施している。

※1、写真の日付が2008/1/1に成っていますが、写真機の機能により日付設定を行う事を忘れた為（2017/2/5撮影）

※2、日付は被害が出た翌年の撮影日